

令和元年度第2回
景観アドバイザー部会

会 議 録

日 時：2019年10月8日（火）午前9時15分開会
場 所：カナモトホール（札幌市民ホール） 2階 第1会議室

■もくじ■

1	開 会	3
2	議 事	
	議事事項1 「新さっぽろ駅周辺地区 I 街区開発計画」について	3
	議事事項2 その他（非公開）	
3	閉 会	2 5
4	閉会後の追加意見	2 6

令和元年度第2回景観アドバイス部会

- 1 日 時 2019年10月8日（火）午前9時15分～午前12時00分

- 2 場 所 カナモトホール（札幌市民ホール） 2階 第1会議室

- 3 出席者 委 員：小澤部会長ほか5名（巻末参照）
札幌市：まちづくり政策局都市計画部地域計画課長
まちづくり政策局都市計画部地域計画課景観係長
まちづくり政策局都市計画部地域計画課景観まちづくり担当係長

- 4 議事
議事事項1 「新さっぽろ駅周辺地区Ⅰ街区開発計画」について
議事事項2 その他（非公開）

1. 開 会

○事務局（地域計画課長） 定刻となりました。

本日は、大変お忙しいところをご出席いただきまして、まことにありがとうございます。

ただいま、委員6名中、6名の方がおそろいでございます。

札幌市景観条例施行規則第26条第4項の規定により、部会成立の定足数を満たしておりますので、ただいまから、札幌市景観審議会令和元年度第2回景観アドバイス部会を開催させていただきます。

私は、事務局を担当しております札幌市まちづくり政策局都市計画部地域計画課長の二宮でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

まず、委員の皆様へ配付しました資料の確認をさせていただきます。

配付資料1、会議次第、配付資料2、座席表、配付資料3、景観アドバイス部会委員名簿、それから、本日配付の差し替え資料としまして、A3判横の設計段階景観プレアド計画概要書というものと、設計段階景観プレアド添付図書ということで、こちらの2部を机の上に用意させていただいております。

以上でございますが、不足のものなどはございませんでしょうか。

また、事前に送付させていただきました案件資料につきまして、ご事情により持参されていない方がいらっしゃいましたらお知らせください。

次に、連絡事項ですが、都市計画部長の田坂につきましては、公務の都合上、欠席させていただきますので、ご了承ください。

それでは、本日の議事に入っていただきたいと思ひます。

なお、本日の景観アドバイス部会の議事事項（2）につきましては、設計段階以外の案件を取り扱うものであることから、札幌市の良好な景観の形成に関する取扱要綱第23条第2項の規定により、非公開とさせていただきますので、議事事項（1）が終わりましたら、傍聴者、報道関係の方々へご退席いただきますよう、お願ひいたします。

また、議事に入って以降の場内での写真撮影はご遠慮いただきますよう、お願ひいたします。

それでは、小澤部会長、よろしくお願ひいたします。

2. 議 事

○小澤部会長 それでは、まず、議事に入ります前に、部会委員の紹介をさせていただきます。

私は、本部会長を務めております北海道大学の小澤と申します。

建築デザイン、建築史を専門としております。どうぞよろしくお願ひいたします。

○岡本委員 北海学園大学の岡本です。よろしくお願ひします。

○窪田委員 株式会社KITABAの窪田です。

ランドスケープの立場で参加させていただいております。よろしくお願ひします。

○西山委員 北海道大学の西山です。

専門は建築都市計画です。よろしくお願いします。

○松田委員 札幌にあります寒地土木研究所の地域景観チームの松田と申します。

専門は、土木デザインと景観まちづくりです。どうぞよろしくお願いいたします。

○渡部委員 公益社団法人日本サインデザイン協会の渡部と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

専門は広告物です。

○小澤部会長 本日の景観アドバイス部会は、以上6名の委員で担当させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事事項(1)、「新さっぽろ駅周辺地区I街区開発計画」について、議事に入りたいと思います。

まず、事務局からタイムスケジュールの説明をお願いいたします。

○事務局(景観係長) 景観係長の永井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、この後のタイムスケジュールですが、事業者様から自己紹介をいただき、計画の概要について、約15分でご説明願います。15分たちましたところで鐘を鳴らしますので、その時点で終わられていなければ、迅速な対応をよろしくお願いいたしますと思います。

その後、各委員と事業者様との間で意見交換を約45分とっております。意見交換を一通り終えましたら、部会長に本日の部会の意見をまとめていただきます。

最後に、事務局から、流れについて説明をさせていただき、10時30分ごろ終了予定というところで進んでいきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○小澤部会長 それでは、事業者側から説明をお願いしたいと思います。

ただいまご紹介がありましたように、おおむね9時40分ぐらいまで時間を見ておりますので、よろしくお願いいたします。

○事業者(大和ハウス工業) 皆様、おはようございます。

事業者代表大和ハウス工業の奥野と申します。

新さっぽろ駅周辺地区G I街区開発につきまして、全体計画、G街区のプレアド説明をさせていただき、ご指導、ご意見いただきまして、G街区は着工させていただいております。

本日は、主にI街区の景観プレアドの説明をさせていただきますので、引き続き、よろしくお願いいたします。

○事業者(大成建設) では、続きまして、本日の参加者の自己紹介をさせていただきます。

初めに、事業者建築主様の方から、ご所属とお名前ということで、順番にお願いいたします。

○事業者(大和ハウス工業) 事業者であります大和ハウス工業の荒田と申します。

各施設全体の取りまとめを行っている役割をしております。どうぞよろしくお願い致します。

○事業者（大和リース） 大和リース株式会社の園田と申します。

商業施設と駐車場の建設をさせていただきます。よろしくお願い致します。

○事業者（大和ハウス工業） 大和ハウス工業の河田です。

主にマンションの計画を行っています。よろしくお願い致します。

○事業者（大和ハウス工業） 大和ハウス工業の宮脇と申します。

主に、ホテルの開発を担当させていただいております。よろしくお願い致します。

○事業者（新さっぽろ脳神経外科病院） メディカルA地区に病院を移転します医療法人新さっぽろ脳神経外科病院の事務長の中村と申します。よろしくお願い致します。

○事業者（新札幌整形外科病院） メディカルBに移転します新札幌整形外科病院の事務長をしています大野と申します。よろしくお願い致します。

○事業者（記念塔病院） メディカルCに移転予定の医療法人記念塔病院事務部長の夢嶋と申します。どうぞよろしくお願い致します。

○事業者（大和ハウス工業） メディカルDの開発を担当させていただいております大和ハウス工業の網干と申します。よろしくお願い致します。

○事業者（大成建設） 続きまして、前列は設計者になります。

私は、大成建設の川崎と申します。

景観デザインなど全体のマスタープランの担当です。よろしくお願い致します。

○事業者（ドーコン） ドーコンの秋山と申します。

総括及び商業ゾーン側、商業棟、共用駐車場、それから、住宅棟をメインに設計の総括させていただいております。よろしくお願い致します。

○事業者（大和リース） 大和リースの設計の松尾と申します。

商業施設と駐車場の設計監理の補佐になるのですが、オブザーバーとしてご参加させていただいております。よろしくお願い致します。

○事業者（ドーコン） ドーコンの古池と申します。

担当は、商業施設と駐車場の設計になります。よろしくお願い致します。

○事業者（大成建設） 大成建設設計部の梅本と申します。

ホテル棟の建築設計を担当しております。よろしくお願い致します。

○事業者（大成建設） 大成建設の設計の下手と申します。

メディカルエリアの設計全般の統括をしております。

また、リンクの設計も担当しております。よろしくお願い致します。

○事業者（大成建設） 大成建設設計の出口と申します。

メディカルB及びアクティブリンクの設計の担当しております。よろしくお願い致します。

○事業者（大成建設） 大成建設の設計の岩崎と申します。

メディカルAに入られる新さっぽろ脳神経外科病院様の設計の担当をしております。よろしくお願ひいたします。

○事業者（大成建設） 大成建設設計部の西村と申します。

メディカルCの記念塔病院様の設計の担当しております。よろしくお願ひいたします。

○事業者（大成建設） 大成建設設計部の佐々木と申します。

メディカルDの設計を中心に担当しております。よろしくお願ひいたします。

○事業者（大成建設） それでは、内容のご説明に移りたいと思います。

お手元に、本日お配りしました計画概要書、10月8日版になりますが、こちらのほうでご説明をしたいと思います。

スクリーンにも同じものを映しますので、お手元の資料とあわせてご確認をいただければと思います。

以前、委員方にお配りした資料と内容的には変わっておりません。パースの一部調整ですとか、図面の整合性を図るために直したもので、内容的には事前にお配りしたものと同じものです。

まず、1ページ目がI街区、G街区全体の開発コンセプトになります。

コンペの提案時には、活彩都市というタイトルで応募いたしまして、生き生きとして彩りのあるまちをつくりたいということでご提案をしております。「にぎわい感や楽しさ、自然が感じられる、新さっぽろならではの『まち』をつくる」ということを基本的な考え方としております。

左側にありますが、まちづくり全体のコンセプトということで、「7つの成長エンジン」という七つの用途を導入することによって、先導的で独自性の高いまちづくりを目指しております。

あわせて、若者から高齢者まで、多くの人が集まる新しいまちを創出したいということと、新産業の創造を目指しております。

右側については、既存の建物も含めた用途構成になりまして、私どもとしては、今回の開発は、ミクストユースということ 키워ドとしまして、交通の便利な駅前にさまざまな用途を導入することによって、コンパクトシティやスマートシティといった郊外型の都市モデルになることを目指しております。

2ページ目が景観デザインのコンセプトになります。

全体のコンセプトとしては、新さっぽろに新たな景観を創出するというので、周辺地域から際立たせたデザイン性の高い建物群として、G・I街区全体でシンボル性を生み出すということを目指しております。

大きく七つの切り口で考えております。

まず、一つ目が新さっぽろ駅側のエリアです。まちの顔として商業やホテル、それから、アクティブガーデンが一体となって、にぎわいや楽しさ、自然が感じられるファサードをつくるというふうにしております。

二つ目がメディカルと集合住宅、共用駐車場の中低層部になります。こちらにつきましては、四季の木立をイメージさせる彩帯（いろおび）で、まちとしての一体感をつくり出すことを目指しております。

三つ目がJR千歳線側からの景観です。新千歳空港から入ってくる新札幌、あるいは、札幌全体の市街地のまちの入口として、まちの玄関口を演出するということを考えております。

四つ目がアクティブリンクになります。今回のまちの一つの大きなシンボルになりますけれども、街区全体をつなげる開放感のある歩行者空間、それから、そこからにじみ出す人の活動ということがまちのシンボルになるということを目指しております。

五つ目が歩行者ネットワークです。まちのにぎわいと緑が感じられるような歩行者のシーケンスをつくるということを目指しております。

それから、六つ目がランドスケープです。生態系のネットワークに配慮した緑豊かなまちづくりを目指しております。

最後にライティングです。人がいるとき、いないときも、にぎわいや楽しさ、温かみが感じられるような照明計画を目指しております。

では、順番に、1から7についてご説明をいたします。

まず、新さっぽろ駅側ですけれども、今回の考え方としては、大きく二つのゾーンに分けておまして、駅前の商業・ホテル・アクティブガーデンのエリアにつきましては、どちらかという、店舗やサイン、広告、商品ディスプレイといったもので、まちの彩りがつくられるというふうに考えまして、建物は、どちらかという、アースカラー系で抑えるという考え方で、建物のデザインを考えております。

あわせて、駅前は、商業施設について、こういったガラスのファサードをつくって、その内側に店舗がフレームで見えてくるということで、デザインをコントロールしながら、にぎわいを出していくということを考えております。

それから、ホテルとアクティブガーデンにつきましては、庭とホテルの低層部が一体的な空間で、屋内と屋外が連続的に使えるような空間構成を目指しております。

また、ホテルについては、低層部と高層等について、デザインを切りかえることによって、分節化、ヒューマンスケールを目指しております。

アクティブガーデンにつきましては、今回、住民参加のワークショップを開催しております。模型やイメージ写真を用いまして、どんな使い方をしたらいいか、どんな空間にしたいかということ、地域住民、地元の学生、事業者、設計者、行政の方々、20名から30名ぐらいの方々の参加で、ワークショップを4回開催しまして、案を固めております。

案は、おおむね決まってきました、右下の図にありますように、芝生広場を中心として周辺にマウンドをつくりまして、花畑やベンチ、子どもが遊べるようなスライダーといったものを用意するような、新しいシンボルとなる広場を目指しております。

2番目は、メディカル・集合住宅・共用駐車場の中層部になります。こちらにつきまし

ては、生活系の建物になりますので、建物側では彩帯というものをを用いて、彩りをつくっていくことを考えております。

新札幌の原風景であります豊かな四季の原生林というものをモチーフとしまして、札幌の景観色70色を中心として、各建物のコーポレートカラー、あるいは、建物の機能に合わせた色彩をそれぞれテーマカラーとして色を選びまして、建物のデザインにあわせて彩帯を入れていくという考え方でおります。

病院につきましては、青色や緑色、それから、アースカラー系の色、赤色の4色で、メディカルA・B・C・Dを構成しております。

駐車場につきましては、商業施設との連動を考えて、ルーバーのところにコーポレートカラーのオレンジ色を入れております。

集合住宅の低層部のバルコニーについては、ルーバー状にしまして、共用駐車場と交差させるようなデザインにして青い彩帯を入れる形で考えております。

それから、三つ目は、JR千歳線側からの景観になります。まず、車窓から目に入ってくるのがタワーマンションとメディカルDの建物になります。

集合住宅につきましては、中間階にこのような共用のラウンジを設けます。ここがラウンジになるのですけれども、ここに色を入れてアクセントをつけて、建物にフレームをつけて強調させるというデザインによって、新札幌に来る方々を迎え入れるということをデザインで表現しております。

また、足元周りに、集合住宅のプレイロット、それから、メディカルDのリンクガーデンという二つの広場がありまして、ここの緑化を充実させて緑豊かなまちの玄関口という演出をしております。

四つ目がアクティブリンクになります。アクティブリンクにつきましては、鉄骨の構造になっていまして、橋脚と、歩くところになる空中歩廊については、コの字のフレームにしまして、内側を開放感があるようなデザインで考えております。そうすることによって、空中歩廊を歩く人が各建物をよく見えるようにということと、それから、まちを歩く人からも空中歩廊を歩く人がよく見えるということで、見る、見られるの関係をつくろうというふうに考えております。各建物がよく見えることによって、彩帯で各建物にアイデンティティがありますので、そういったもので誘導されて歩いていくことができるというふうに考えております。

外側についても、構造の許す範囲で、できるだけ開放感を出しまして、開口部を設けるということを考えております。

それから、周辺の建物につながる部分についても、アクティブリンクに連動させるような形で、なるべく開放感のある渡り廊下をつくりまして、渡り廊下のデザインについても、各建物で共通のデザインを用いております。

それから、五つ目が歩行者ネットワークになります。大きく地上と2階レベルと二つの歩行者ネットワークがありますけれども、歩行者ネットワーク沿いに、オープンスペース

を配置してシーケンスをつくっていくということと、サイン計画を用いて誘導するということを考えております。

左側半分が地上部分の歩行者ネットワークになりますけれども、地下鉄駅の7番出口から出てくると、ここにアクティブガーデンという広場が目に入ってきます。このアクティブガーデンを通り抜けると、新設道路を歩いてアクティブリンク、空中歩廊が見えてくるという景観になっております。そこを抜けると、みんなのみちという北側の住宅地へ抜ける歩行者通路をつくるのですが、そちらの入り口のところは、こういった景観になっております。最後に、新設道路の出口は、先ほどのJR千歳線側から見える景観と同じで、緑豊かなオープンスペースがあるというのが地上の歩行者ネットワークになります。

それから、2階レベルにつきましては、駅から横断橋をずっと渡ってきまして、商業施設に入ってきます。商業施設のところは、吹き抜け空間になっていて、そこを気持ちよく通り抜けるような形でやっています。ホテルからアクティブリンクのところに抜けてきまして、アクティブリンクから各建物に入っていくという構成になっています。2階の歩行者動線につきましては、木のルーバーをモチーフとしまして、こういった壁面、それから、天井面に木のルーバーを用いて歩行者動線をわかりやすく誘導していくということを考えております。

また、あわせて、サイン計画につきましては、地上では、既存の札幌市の共通の濃い緑色のサインがありますので、それとデザインを共通化しまして、濃い緑色の誘導案内サインを設けようというふうに考えております。2階の空中歩廊につきましては、木ルーバーというデザインモチーフがありますので、それとデザインをそろえまして、天井の木ルーバーから垂れ下げ、つり下げの誘導サインを用いて、各建物のテーマカラーで誘導していくということを考えております。

六つ目がランドスケープになります。前回の構想段階でご指摘がありましたけれども、野幌森林公園との関係を考慮いたしまして、大きく野幌森林公園が生態系の核ということになりますので、そこからずっと青葉緑地などの斜面緑地の緑のつながり、それから、野津幌川などの川沿いの緑の生態系のつながりという大きく二つの流れがあります。計画地I街区がここになりますけれども、斜面緑地の緑のつながりがこちらになりまして、川の緑のつながりがこちらになります。そういったところとのつながりに配慮した計画を考えております。

また、周辺の植生を調べまして、左下の図になりますけれども、それぞれの緑地で、どのような木が植わっているかということを調査しております。今回の計画では、そういった周辺の植生にあわせた樹種を選んで植えていきたいというふうに考えております。

ランドスケープの配置としましては、大きくまちの入り口に二つの緑がありまして、それを新設道路の歩道沿い空地の緑でつないでいくということを考えております。

また、先ほどの斜面緑地からの緑のつながりを、メディカルゾーンの北側の住宅地の境のところに植栽をして、緑のネットワークをつくらうと考えております。

それから、あとは、防風植栽です。風は、こちらとこちらが卓越風向になりますので、このあたりがビル風が強くなるということで防風植栽を考えています。

あとは、JR千歳線側からの緑ということで、駐車場、駐輪場等がありますので、そういったところを緑で修景していくということを考えております。

今回の生態系に配慮した植栽を行うことによって、右にありますようなチョウや鳥類というものが誘致できるというふうに考えております。

最後に、照明計画になります。アクティブリンクという楕円形の光の輪というものを照明計画の一番のメインシンボルとして考えております。

そのほか、駅側で、まちの表情をつくる照明計画ですとか、建物、樹木のライトアップによる照明、それから、住宅・病院については、落ちついた照明計画というのは、こういったゾーニングで、各属性にあわせた照明の計画の方針を考えております。

原則と基本ルールは、下に書いておりますけれども、電球色による色温度の統一、光の陰陽をつけてコントラストを出していくこと、時間帯に合わせて光のオペレーションに変化をつけていくということを考えております。

植栽と照明計画については、まだ具体的な設計段階に入っていないので、方針になりますけれども、こういった考えで、今後、設計を進めていきたいというふうに考えております。

それから、最後に、スケジュールになりますけれども、添付図書の6ページに、マスタースケジュールがあります。

今回の景観プレアドの開催はこちらになりますけれども、まず、最初に、共用駐車場を先行して来年2月に着工することを目指しております。引き続き、メディカルAとDが来年3月に着工をいたします。それで、引き続き、分譲マンションが5月ぐらい、それから、メディカルBとCが引き続き着工していく、これが第1期の着工になります。

それから、第2期は、共用駐車場ができ上がった段階で、今、既存の駐車場がありますので、既存の駐車場を解体して、それから、新しい商業施設とホテルを建てていく、こちらが第2期になります。

I街区のまち開きにつきましては、メディカルA・B・C・Dと空中歩廊が開通する時期ということで、2022年6月を目標にまち開きを考えております。

全体の建物が完成しますのは、2022年度末ということで、こちらで、商業ホテル・集合住宅が完成をして全体が完成します。これから、まだ3年半ぐらいかかるスケジュールになりますけれども、そういう意味で、設計の熟度も、まだ基本計画の段階のものがありますし、実施設計に入っている段階もあります。

今回のプレアドは、共用駐車場の6カ月前に申し出をするということで、時期をそれぞれの設計者の方と合わせていただいて、設計者同士でデザインの調整を何度も繰り返しまして臨んでいるということで、ご報告をいたします。

以上で、ご説明を終わります。

○小澤部会長 ご説明いただき、ありがとうございます。

10時25分まで、時間を見ております。45分足らずですが、委員の皆様からのご意見をお伺いして、アドバイスしていきたいというふうに思います。

それでは、ただいまご説明いただきましたけれども、委員の皆様から、何かご質問、ご意見等はございませんでしょうか。

○西山委員 大変わかりやすいご説明を、どうもありがとうございます。

G街区も非常にいい形で対応いただいて、我々も前回のプレアドバイスの意義があったなみたいな話を部会内でもしていたところで、今回もまた有意義なディスカッションができたらいなと思って楽しみにしてまいりました。

私も全部覚えておりませんが、前回、このエリアに関して、幾つか、質問させていただいたことで、一つ、最後のほうで話題になったまちの名前についてです。活彩都市とありますけれども、でき上がってまち開きの後に、札幌市民がこのまちを何と呼んで訪れるのかというような、まちのネーミングについては、決まっているのでしょうか、それとも、活彩都市なのでしょうか。

○事業者（大和ハウス工業） まちの名前については、事業者側で決めるのか、皆さんに公募して愛着のある名前にするのか、今、検討中でありまして、時期的にはまちの名前は必ずつけたいなと思っております。

○西山委員 例えば、このアクティブガーデンが外側に向かってかなり大きな高いのり面が茶色で塗られていまして、何方向かから照明を持っていると思うのですが、そういうところにまちの名前が入っていたらと思うのです。例えば、福岡のキャナルシティだったら、キャナルシティというのがどっちから入ってきてもちゃんと見えて、よそから訪れた人からすると、あのまちかみたいな感じと、かなり大きなデザインになるので、あれがまちの印象づけるところもあると思うのです。

例えば、先ほどの茶色ののり面は緑化してしまっただけで風景に消していくのか、それとも、あそこにそういうふうなものをつくっていくかによっても、景観的には大分違うものになるだろうと思うのです。その辺の計画をかなり戦略的にやられるのかどうか、もし今お話しただけのことがあればいただきたいし、そうでなければ、ぜひともご検討いただきたいのですが、いかがでしょうか。

○事業者（大成建設） まちの名前について、決まりましたら、ぜひそういうロゴデザインなどをまちの入り口につけていたり、それから、先ほど説明したサインにもロゴを入れたりして、できるだけまちのアイデンティティーというものをデザイン的にも表現していきたいというふうに考えております。

○事業者（ドーコン） 補足説明ですけれども、今、委員がおっしゃっているのは、3ページのパースCのところですね。

これは1.5メートルから2メートルぐらいののり面といたしますか、茶色の斜面を考えているのですが、これはワークショップでつくっていて、アイデアの中で、百年記

念塔のコールテン鋼をのり面に持ってこられたらいいねという案が出ております。確かに、委員がおっしゃるように、キャナルシティではないですけれども、ここにまちの名前がどんと入ると、確かにそこまで来たりしますよね。

このアクティブガーデンは、ワークショップで議論しておりますが、ただ単純なこんなのだったらいいよねではなく、実際に地元の方、学生や、お金を出す、あるいは、これからこれを運営していく事業者、設計者、行政にも入っていただいて、これが本当に実現できる、できないというのを、それぞれのディメンションで討議をしてもらって、これを実現化していこうという内容でやっておりまして、今、非常に楽しみなところになっております。

○西山委員 そのときの地元というのが気になったのですけれども、今、将来の住民はいないわけですよね。ですから、ワークショップにおいて、住民というのはどういう人と位置づけているのですか。

○事業者（ドーコン） 住民ですが、ちょうど札幌市が厚別区で景観まちづくりのセミナーをやっておりまして、4回やりましたうち、積極的に出席をしてくださって発言をされている方に、こういうワークショップをやりたいので、ぜひとも参加してくれないかと直談判いたしました。結果としては、商店街の方だったり、本当にあの地元に住んでいる方に、大人数で何かやるようではなくて、本当にそのことを考えてくれている人たちをメインに、ワークショップに入ってくれと直談判してやりました。

○西山委員 最後に、このアクティブリンクについて、このリンクの下を通る道路ですけれども、添付資料の1階のプランを見ると、アクティブリンクの影を落とすような形で車道が入っているように見えますが、これはその理解でいいのですか。

要は、車が通る道を非常にはっきりと地面に描いていますけれども、この道はどういう車が通るかによって、例えば、駐車場を使う車がみんなここから入るのだったら、場合によっては渋滞まで起こすような道になるかもしれません。この全体の計画からいうと、このアクティブリンクのある通りは、できたら車が通ることを前提とせずに、車と人がシェアード・スペースみたいな発想で、ある程度、この道を歩行者に開放すると。業務用の車両は遠慮して通るみたいな、基本、ここが人に開放される空間になれば、このまち全体をイメージしたときに、全然違うまちになるような気もするのです。

たしか、前回もそういう話をしたと思うのですけれども、それは技術的に不可能という判断になったのですか。今のこの図を見る限りは、車道が分離する二つを空中で、ペDESTリアンデッキ的に歩行者には空中だけを開放するみたいな形に見えるのですよね。もし先ほど私が言ったようなことができるのであれば、このまちのイメージが非常に変わるのではないかと思うのです。

そうすると、今まきに見えているこの車道を消して、一つのデザインで別の空地と捉えようと、もっといろいろな外構デザインも考えられるし、そこにリンクが浮いているというまちは、ある意味かなりアピール力が出てくるのではないのかなとも思ったりもするので

すけれども、その辺は技術的にどうだったのでしょうか。この前の最後の議論だったかなと思います。

○事業者（大成建設） 歩行者専用にするのは、なかなか難しいなというところではあるのですが、できるだけ中の通過交通を減らすということで、病院の医療関係車搬入、搬出の動線は外側を回るような形にしたり、商業施設の搬入もこちら側から入れるということで、できるだけ中の自動車交通は減らすという工夫をするということと、あとは、こちらの新設道路の歩道については、インターロッキング舗装にして、電線地中化をして、景観に配慮した街路空間をつくるということは考えております。

自動車交通を完全に排除するということまでは、なかなかやり切れてはいないのですが、例えば、時間帯でここを歩行者天国にしてイベントをすとか、時間帯で区切るというようなこともアイデアとしては出ております。

○西山委員 いただいた資料で、道路の断面が出ていますか。このアクティブリンクを南北に、要するに、この絵でいう縦で切ったものです。

○事業者（大成建設） 今回、断面はご用意できませんでした。

○西山委員 それは、もしかしてワークショップでやられているかもしれないけれども、別に排除する必要はないと思うのです。さっき、まさにシェアード・スペースと言いましたが、ギャップをなくして、例えば、ペーブメントだけを車道の色と多少変えるのもあるかもしれません。要は、使おうと思ったらフラットに使えるようなデザインというだけでも大分違って、時間規制をするなど、その辺のソフトの使い方を十分に考慮すると、緑の植え方も違ってくると思うのです。私は、中央のこの広いオープンスペースを、アクティブリンクを冠のように頭に抱えながらも、使いこなせるスペースにするなんていうことを考えるといいのかなと思うのです。

このアクティブリンクは、ガラスで閉鎖されて密閉されているのですか。それとも、あけて、そこでイベントをやっているときにリンクからのぞき込むことができるのか。そういうふうなアクティブリンクを使う人、通る人と、下の1階部分の外との関係は考えられていますか。

○事業者（ドーコン） リンクの内側は、全部、基本的に、はめ殺しのフィックスの窓になっています。車道の上から物を落とすとか何とかという話も含め、基本的にはフィックスで全部やっています。

両サイドは、通風の意味も含めてあける部分はありますけれども、基本的にはフィックスになっています。

○西山委員 ほかの委員の方からもご意見あると思いますけれども、私は、その辺に関して、ぜひとも、もっとすばらしいデザインになる可能性があるかなと感じております。

以上です。

○小澤部会長 ほかの委員からお願いします。

○岡本委員 岡本です。

わかりやすい説明をありがとうございました。

前回、商業施設のファサードが陳腐化してしまうようなものだと思うので、直したほうがいいのではないかとのお話をさせていただいて、結果、ガラス張りになって、貸せる床が少し減ったのかなと思って心配しているのです。ただ、前回よりもすごくよくなったのではないかなと個人的には思っています。

幾つか、お伺いしたいと思います。

まず、新札幌駅から来られる方々の動線の図が7ページにあります。空中歩廊2階というところで、僕が新札幌駅に着いたら、きっとこの空中歩廊をこちら側に歩いてきて、なぜか一回地上におろされるのですよね。また、エレベーターかなんかに乗って、デザインされていない味気ない通路を通過して、商業施設に入ることになっているのです。これは、2階レベルで真っすぐつなぐということは、どちらかと協議してできないのですか、それとも、できるのですか。

○事業者（大成建設） 今、こちら側の接続については、A街区という街区の開発の構想がありますので、そちらで整備をしていただく予定でありますので、そこができれば、2階レベルでつながることになります。

○岡本委員 それだとうれしいのですけれども、しばらくはこのまま一旦おりるということですね。

そうすると、このJRの高架から地下鉄やJRをおりて地上を歩いてきて、こちらの空中歩廊につながっているエレベーターに乗って、商業施設に2階レベルで上がっていくというようなスタイルだと思うのです。この地上レベルから見たときに、デザインされていない空中歩廊によって、商業施設の表層はほとんど見えないのではないかなと思うのですが、いかがでしょうか。

○事業者（大成建設） 駅側から見ると、こんな感じになります。

○岡本委員 そうすると、今、描いていただいている渡りの部分のデザインも結構大切になってくるのではないかなと思うのですが、そちらについては、現時点で何か配慮されているのでしょうか。

○事業者（ドーコン） 今、これは事業の中ではA横断橋と位置づけられていまして、基本的には、このパースで見られるようなトラス構造で見せて、ガラス張りという話まではできてきております。

○岡本委員 構造的にはトラスが必要なのでしょうけれども、受けとめ側との協調みたいなところで何か配慮は、白い色であるということぐらいですか。

○事業者（ドーコン） 商業側の受けとめは、一回壁受けで考えています。壁受けをした上で、左側のスクリーンに展開していくという話です。

○岡本委員 もう少し、一体的なデザイン性みたいなものを含めていただけるといいのではないかなと思います。どういうふうにデザインしたらいいとアドバイスができないのが非常に情けなくて申しわけないのですけれども、そんな気がします。

それから、先ほど、6 ページのアクティブリンクの話がたくさん出ていましたけれども、僕が気になるのは、ここを歩いていたとして、緑が豊かで、空が広く開けて、アクティブリンクがあって、余り見たことがない興味深い景観だなと思って経験するのでしょうか。でも、アクティブリンクの裏面はどういうデザインされているのですか。

○事業者（ドーコン） 裏面とは、外周面ですね。

○岡本委員 いえ、下、底です。

○事業者（ドーコン） 底は、このパースBがありますが、天井と同じように軒天側も構造のリブが1, 200ピッチでずっと入っていくというふうにして、天井を張らない構造をそのまま見せるという形になっています。

○岡本委員 通路部分の天井と同じような協調されたような感じがあるということですね。色自体は、素材の色みたいな感じですか。

○事業者（ドーコン） 全体は白系です。

○岡本委員 わかりました。

個人的には、何かもう一声、配慮があってもいいような気がしています。

もう一つ、9 ページの最後のアクティブリンクの照明のところですが、まだ計画ですというお話で、非常に魅力的な光らせ方をした画像処理がなされているのですが、実際には、恐らく交通安全上の問題などもかかわってくると思うので、照度の関係でいろいろと制約が出ると思うのですが、こんなに華やかに光るのは可能ですか。

○事業者（ドーコン） 内側に対しては、ああいうふうにずっとカラスだけでやっていきますので、本当に光が漏れてくるイメージにはあります。

外側は、縦にスリットが入った形なので、少し影が出ながらというふうにして、それでも外にも十分光が漏れる構造にはなっているということで、こういうイメージをしています。

リンクの中の演出として、先ほどの歩行者空間、歩道空間を含めて、庭園灯を配していきながら、雰囲気を出していきたいというところになっています。

実際には、ここの新設道路は、札幌市道になっていますので、その道路基準から、街路灯はつけなければいけないことになっていて、この新設道路で7基、ずっと千鳥になっていて、リンクの中にも二つ街路灯が入ってしまうので、ここまでシンプルにきれいにならないとは思いますが。

○岡本委員 わかりました。

そういうところも踏まえた上で、きっと照明計画がなされていくのだと思うので、期待したいと思います。

○小澤部会長 それでは、ほかの委員からいかがでしょうか。

○窪田委員 わかりやすい説明をありがとうございます。

私からは、⑥のランドスケープの生態系ネットワークに配慮した緑豊かなまちをつくるというところで、ご説明いただいた点になります。

野幌森林公園を核とした周辺に見られる植生を取り込んでいくという植栽計画ということで、すばらしいなというふうにお聞きしておりました。

その中で、高木等については、この周辺に見られる植生の木を入れていくということなのですけれども、この部分に生態系のネットワークをつくっていくというすごく大きな目標を立てられている中で、チョウ類や鳥類も入ってきてくれるということを期待する緑地づくりということでした。

緑化については、詳細はこれからということで先ほどご説明あったので、これからの検討になるかなとは思うのですけれども、その中でぜひ検討していただきたいと思うのは、高木と芝生というだけの構成だと生態系豊かな緑をつくっていくのはなかなか難しいかなというように思っております。草本類、草花ですとか、低灌木でブッシュをつくって、特にこういう小さな鳥やチョウみたいなものは、ブッシュ、あるいは、草本の草花の蜜を求めて来るようなところもありますので、そういった多様で立体的な緑づくりをできる場所がもしあるのであれば、そういったことも取り組んでいくことで、生態系のネットワークづくりができるのかなというふうにしてお聞きしていました。

ただ、都市というか、住環境の中で、こういうのを取り込んでいくというのは難しい側面もあるかなと思うのです。実際には、斜面緑地のネットワークということで、ゾーニングを見ると、可能性としてはこのあたりも入れていけるのかなというふうに見ていたのです。ほかの図面を見ると、どうしても駐車場も多くなっているのです。このあたりというのはどのぐらい緑が入れていけるのかというのは見ていて少し疑問といたしますか、実際にはそのギャップがあるのかなと感じておりました。

それから、まとまった緑地の部分で、どういうふうにつくっていくかというのは、これからののかなと思いますので、そのあたりを今後検討いただけたらというふうに思っています。

○小澤部会長 松田委員、お願いします。

○松田委員 丁寧なご説明をありがとうございます。

今、窪田委員から駐車場の話がありましたので、それについて関連してお伺いします。

やはり駐車場は、それなりの面積もあります。十分ご存じだと思いますけれども、駐車場の存在が非常に目立つと、まちの景観というか、潤いもなくなるので、こここのところのつくりというのは非常に重要になってくると思うのです。

今、窪田委員から、緑がどういうふうに入ってくるかという話もありましたけれども、この絵が小さいのでわからないのですが、病院に来られる方は高齢の方とか障がいのある方もいらっしゃるかと思うのです。車を停めた後に、病院までどういう動線で来るのか。これを見ると、車をおりてから、一応、歩行空間が用意されているような感じもしますが、この辺の配慮と、先ほど言った緑の関係とを総合的に考え、使う方、それから、鉄道からも見えますので、使わない方へのご配慮もよろしくお願ひしたいと思ひます。

それと、本題ではないのですけれども、前回のプレアドバイスのときに、いろいろご助

言、議論したこともあったかと思うのです。それとの関連で、少しご説明していただいたほうがわかりやすいので、この後の議論でも関連してご説明できるようであれば、よろしくお願いいたします。

○小澤部会長 ただいま、窪田委員と松田委員から要望という形で発言させていただきましたけれども、それにつきまして、事業者様の方から何かございますでしょうか。

○事業者（大成建設） 駐車場の緑化については、北側の部分で、1メートルから2メートルぐらいの幅で、植栽帯がつくれそうかなとは考えております。中木、低木、あるいは、草本も含めて、できるだけそういったものも入れていければと思っております。

あとは、こちらのリンクガーデンのところについては、隣にちあふるという子育て施設もありますので、お子さん方なんかも楽しめるような生き物の誘致ができるような種類を植えられていければというふうに考えております。

駐車場の緑化は、どちらかというところ、裏動線のような形になって、患者様は、主にこちらの共用駐車場にとめて、2階の空中歩廊で病院に行かれるという形になります。こちらの駐車場は、どちらかといえば、裏方の駐車場という位置づけという計画になっております。

○松田委員 説明が十分でなくすみません。私が対象として取り上げたのは、共用駐車場のところなんです。集合住宅のところ広い面積になるので、そちらについて、助言させていただいたところでした。

○小澤部会長 渡部委員、お願いします。

○渡部委員 丁寧な説明をありがとうございます。

この地域というのは、周辺に豊かな自然があるということで、いろいろな生物がいる、そして、それに伴って緑もたくさん配置してくださっているので、この計画を見たときに、二子玉川ライズの2階の生物が来てもらうというのを思い出したのです。

ここも訪れることが期待されるということで、チョウ類や鳥の種類がいろいろ書いてありますが、それらが期待できる、来られるような環境づくりにしてもらえるとうれしいなと思います。

でも、そのときに、近くに来たときに、あのサインがあって、それを見て子どもたちが生態系を学べるという環境づくりが非常に期待できるとうれしいと思ってお聞きしておりました。

○小澤部会長 子どもの学びという話が出ましたけれども、そういったことは今お考えの中にございますでしょうか。

○事業者（大成建設） 今まで余りなかったのですけれども、子育て層も集合住宅に入居されますし、周りにちあふるなどもありますので、エリアマネジメントをやっていく中で、子どもの環境教育というところも、プログラムとして考えていければと思います。

○小澤部会長 一応、委員が一回りしたのですけれども、私も、幾つか、お聞きしたいことがございます。

最初に、西山委員の指摘にもあったのですが、このアクティブリンクがかかっていますところ、中央部分と、その下の道路ですが、シェアード・スペースと言いまして、基本的に歩行者が中心で、時間によって歩行者天国になるような形になると、この場がすごく雰囲気はよくなるなというふうに私も思っていたのです。

先ほどやりとりする中で、これは市道なので、市道のいろいろな規定のもとで、例えば、照明もそうですが、そういうことはなかなか難しいというようなことがありました。逆に、そのあたりは、札幌市と折衝するなり、何かやっつけていける余地のようなものとか、そこまで踏み込んで対応されたことはございますでしょうか。

○事業者（ドーコン） 道路ですから、原課は道路管理課だったりしますので、事業推進課と一緒に動いたりして、もちろん話をしています。ただ、基本的には、つくって札幌市に渡す道路になりますので、そこは、正直に申しますと突破できなかったところです。

○小澤部会長 一応、我々、景観アドバイス部会は、行政の人間ではなくて、第三者ということでアドバイスさせていただくことになります。やはり、いろいろ開発するとき、さまざまなセクションで担当されている内容がございまして、そこの調整をとって、トータルデザインをすることは、すごく大事なことだと思うのです。もし、そのあたりで理想的なものに近づくために、少しでも何か規制の撤廃といいますか、フレキシブルに考えることができるのであれば、それはぜひ諦めずにやっていただきたいと思います。逆に、このアドバイス部会で出た意見を使っていただいて、札幌市にアピールしていただくということも有効かなと思いますので、ぜひ諦めないでいただきたいと思います。

西山委員もおっしゃいましたけれども、恐らく、歩道との段差や照明の問題など、いろいろあると思いますが、ぜひお願いしたいと思います。

○事業者（ドーコン） いっぱいハードルがありまして、ほかにもいっぱいハードルありました。超えてきましたし、超えられないのもありました。

今後の展開としては、G街区のお話のときにも、科学館のプロムナードからG街区につながっていくところの市道も横断路が一つもつけられないということも含めて、まだまだ、これからやらなければいけない、動いていかなければいけないところがあります。

新設道路のつくり方についても、お話をいただきながら、なるほどと思って話をしたのですが、道路上にこの曲線のリンクをかける協議だけで精いっぱい、そこを何とか道路管理課にもご理解いただいといるところで、できたところまでが今回ハードルを超えたところかなと考えております。

引き続き、ほかにもたくさん事業もありますし、このプレアドの位置づけと行政と事業者とのタグといますか、それをどんどんやっていきたいと思っています。

引き続き、I街区もまだ粘ってやっていきます。

○小澤部会長 我々も、事業者側だけでなく、札幌市側にも、意見として申し上げたいと思いますので、ぜひ、ご協力をお願いいたします。

それと、上のアクティブリンクのガラスのところですが、まだ私が設計の全貌が

見えない状態で、安全的なものからガラスでカバーするというお話ありましたが、温熱環境的に大丈夫ですか。例えば、夏に非常に暑くなるとか、そのあたりのご検討はいかがでしょうか。

○事業者（ドーコン） 今、設計が大分進んできまして、やっと温熱シミュレーションをしましょうというふうになっています。一回、仮に、ざっとシミュレーションをしましたが、やはりかなり暑いことになります。それはわかっておりました。

ガラス張りで、4面外が外気にさらされています。ガラスの性能、それから、当然、周りに建物も建つので、その影が入ったら実際にどうなるのかというシミュレーションを引き続きやっています。

それから、基本的には、換気、通風をやっていこうというふうになっています。さらに空調まで入れたら当然いい環境になりますけれども、結局、できてしまったら維持管理をしていくのは事業者の皆さんなのです。そこに空調を入れると、その維持管理費を皆さんで払っていかねばいけないというふうになりますので、かなり重たくなってきてしまうのです。つくるだけでも重たいのですけれども、維持管理費も重たくなってくるので、できるだけランニングをかけないで、夏であれば、最低限、通風だったり、冬であれば、最低限、雪が積もらない、あるいは、アイスパーンになっていない床を歩いてこられるという積雪寒冷地としてのぎりぎりのところでのネットワーク形成を目指して、引き続き、やっております。熱くはなりそうです。

○小澤部会長 いつも歩廊を歩いているときに思うのですが、いろいろなむらがありますと、非常に不快に感じることがありますし、できるだけ体にストレスをかけないでずっと通っていけるような設計をしていただけたらなと思います。ハードルは非常に高いと思いますけれども、ぜひ引き続き、少しでもよくなるようにお願いいたします。

最後の3点目ですけれども、札幌の色を使っての帯の話がございました。

4ページのところですけれども、一応、こういった大まかなルールを決めて、選んでいただいた色を例えばメディカル棟の中で表現していくということですが、恐らく、色を使うだけではなくて、例えば、ルーバーに使うとすると、そのルーバーに見え方とか、全体の立面に対してルーバーが占める割合とか、各建物のデザインの強弱で全体の見え方が違ってくると思うのです。控え目な建物は隠れてしまうと、その色の帯の効果が余り出なかったりすることもあると思うのですけれども、トータルな景観としてのデザインコントロールを、各棟に踏み込んで、これはもっとこういうふうにしてほしいという全体のデザインコントロールは実際にされているわけでしょうか。

○事業者（ドーコン） 設計は、ドーコンと大成でやっていますけれども、各設計者がいますので、デザイン会議をやっています。パースなり模型なりもでき上がってきて、先ほど事業スケジュールが出てきて、それぞれの設計のディメンションといいますか、状況が違うのです。片方は基本設計で、片方も実施設計がぐっと入ってきたりというところの足並み感の違いはあるのですが、一体的なものをどうやったらつくれるのか、それでなおか

つ各事業者に納得していただくものも含めて、コストも含めて、各設計者とは毎週話し合っております。

○小澤部会長 全体を取りまとめられるのも大変なご苦勞かと思うのですがけれども、各事業者がいらっしやって、各建物ありますけれども、ぜひ全体をチームとしてまとめていただいて、全体としてよくなるように、そこにぜひ労力を注いでいただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

松田委員、お願いいたします。

○松田委員 私から2点申し上げまして、ここで議論させていただければと思います。

一つ目は、5ページ目を映していただければと思います。

高層のマンション棟ですけれども、中層階に共用スペースができるということで、少し切りかえた色の濃い部分がデザインの枠のフレームを組んでいますけれども、いろいろな設計意図はご説明をいただきまして理解したのですが、一方、鉄道、あるいは、この下の道路から見たときに、この建物は本当にランドマークのように目立つところだと思うのですが、まずはあそこに目が行くと思うのです。あそこが欠けたような、切りかえた形になっていて、構造的に少し不安定に見えるということと、あそこから見られているような、狙われているような緊張感を私は感じるのです。

景観デザインのセオリーでも、不安定な構造は不安を覚えるところもあって、あそこがちょっとオーバーハングしているようにも見えてしまっています。おもてなしというか、お迎えというよりも、緊張を受けるような感じがあります。私はそういうふうに感じていました。多分、そういうふうを感じる方も多いと思うのですがけれども、ここに共用スペースをつくって、あその部分があのような構造的になるということは理解しますので、その色とか細かなデザインのところで、今、私が言ったようなところは十分に緩和ができるのではないかと思いますので、そこを少しご検討いただければということが一つです。

もう一つは、先ほどの道路のところの話です。私も道路が専門なので、6ページを見させていただければと思います。この真ん中の上のパスを大きくしたものがあったと思うので、このページを見せていただければと思います

前回の構想段階のときにも、ここが通り抜けの道に使われる可能性がありますよと。

やはり、自動車が優先されているような空間を表現しない方がいいと思います。ここを走ることによって遠慮するようなデザインを検討してくださいということで、これは道路管理者の札幌市の問題もあるということですが、これを技術的に言うと、路側のところを歩道と同じ色にするだけで走行速度は確実に落ちるし、入ってくる車も減ると思います。さらに、今、車道の幅を何メートルでとっているかわからないのですが、3メートル50の（昔で言う）一級国道のようなしっかりしたものではなくて、規定の中のより狭い幅にすることによっても（車優先と見られない空間に）できます。あるいは、今、縁石は全て普通に段差25センチのものを入れていると思うのですが、多分、多くの車が送迎で駐車場まで患者さんやお年寄を乗せたまま行って、向こうから来るのではなくて、駐車場も近いところ

がもう埋まっっていて、奥しかなくて、奥があいているかどうかもわからないような状態だと、病院入口近くの炉側に停めて、降ろして、運転手のお父さんか息子さんだけが車で駐車場に入っていたりすると思うのです。そのときに、路側から縁石を超えられないのです。

私は道の駅の設計も指導していますが、（簿ラードを設置して）全面を低下縁石にしたり、今、高速のSA・PAも全面低下にしていたりします。全面低下にすると確実に車道のスピードは落ちます。どこから人が出てこられるかわからないからです。また、車椅子の方もいますから、そこで車を停車させて車椅子で入る方もいると思うのです。そのときにずっと高く、一部しか低下になっていないと、そこまでなかなか行けないということもあると思います。

そういったところをうまくアクセスしやすくすると、道路の使い方としてはよくないのだけれども、停車する車が増えてきて、送り迎えの車が入ってくると、通過交通が非常に入りにくくなります。先ほど、搬入、搬出の車はなるべくここに入れさせないという話もありまして、それもすごくいいことなのですが、一方、考え方によっては、そういう車がなくなって、走りやすくなって、ここは特に左折で抜けられる可能性があります。こっち側をぐるっと回ってくると、交差点を2回通らなければいけないのですけれども、こっち側だと、すつと行けてしまうのです。

長野の善光寺の通りや出雲大社の前の通りは、まさにそういうふうに（車優先ではなく見せている設計）やっていますし、道後温泉のところもまさにそういうデザインでやっています。土木の景観デザインの詳しい方には、ある種のセオリー的に理解されているところもありますので、その辺は札幌市さんに伝えていただいて、もし必要であれば私も説明に同伴しますので、ぜひご検討いただければと思います。

○事業者（ドーコン） ありがとうございます。一緒に行きましょう。

事業スケジュールの中で、今、造成工事をやっています。それから今、新設道路を今、つくっています。その中に入るインフラも入れたりしながらです。ただ、仕上げは、しばらくは工事中のツールとしてしかまだ使わないので、供用開始されないのです。2022年の夏に仕上げをして供用開始になるので、その仕上げの部分は、歩道と路肩を同じ色にするとか、車道はぎりぎり狭くするというのは、まだ協議の余地があります。

先ほど先生もまだまだ諦めるなど言われていたので、ひょっとしたら先生にもご足労をお願いして、事業推進課さんも巻き込んで、道路管理課さんと楽しくやってみようかと思っています。

それから、駐車場の考え方です。駐車場というか、車の動線のところですが、まず、基本的にこのエリアは、全て700台の共用駐車場を使います。メディカルに来る利用者、商業、ホテルに来る利用者の皆さんがここを使います。そうしますと、病院のメディカルA・B・Cに対して、中の引き込んでいる敷地内通路で、タクシープールとか、メイン玄関はここにそれぞれありますので、そこにタッチしておろして、車の人は回って戻ってきて、駐車場にとめて、また2階を渡って病院に行くという大きな動線の流れを考えており

ます。

住宅につきましては、おおむねここで65%、55%ぐらいの住戸数に対する駐車台数でタワーパーキングをつくってしまいますので、そこはここで完結するのですが、ほかのものはそういったことにしています。

この新設道路に路駐をして、おろして云々ということがされないようになればということでの引き込み通路ですね。この引き込み通路の幅は、車2台分ですので、とまっている車がいっても追い越していけるようになっております。

片や、共用駐車場側の通路は、700台の駐車場の引き込みです。ここに待機している車がいっても、緑の線で追い越していくようにして、ここの入り口ですね。もちろん、7号線からも入り口がありまして、そこのメインの通路になります。

ホテルの表側、車寄せへのアクセスというところになってきています。

これを、各事業者の敷地をまたぎながらつくっていきますので、みんなでルールをつくって、維持管理とか、ロードヒーティングをかけるとか、その費用をどうするかということ、敷地ごとに分かれています。一体でつくってやっていこうという話をコアの会議の中でしております。

本当にお声かけをさせていただきますので、よろしくお願ひします。

それから、タワーマンションの共用スペースは、JR側が11階、12階となっております。これは、バルコニーをやめているだけなのです。ここの階のバルコニーをやめているだけなので、構造的には不バランスにはなっていません。ただ、パースを見たときにそういう印象を受けられるということなので、この中の色ですね。私も、先ほどの設計者会議でも、デベロッパーさん、大和ハウスさんともいろいろ相談していて、明るい色系の案もあつたりしたのですが、今は一番無難なもので景観にかけようということで、こうなっていますので、ここの色を検討する余地は大いにあります。

○松田委員 今、日が当たっているCGになっているので、あそこに壁があるように見えるのですが、曇った日や日陰だと、あそこは抜けているように見える可能性もあると思うのです。そうすると、構造的に非常に不安定に見えたりします。高いところに濃い色のものがあるというのは、基本的にセオリーとして目立つところがあるので、あそこから見られている感がありますね。

○事業者（ドーコン） 設計者は目立たせたいという欲があるのでしょうかね。

フレーム自体はないほうがいいので、逆にフレームが見えづらいほうがいいというところで黒色を設計者は選んでいると思います。

ここは、11階、12階で2層に吹き抜けになっているのです。ラウンジのようになっています。上の階は、お母さんたちがおしゃべりしながらランドリーで洗濯物をしたり、子どもたちが遊んでいたり、ちょっと授乳のコーナーがあつたりというふうになっています。そして、1階には皆さんがいたりしています。

この中に、イミテーションではなくて本物の緑を入れて、緑ガーデンにしまえとい

うことで大和ハウスさんが頑張っています。そして、夜もムードよく外に見えてきたらいいなということに今チャレンジしています。

反対側に21階、20階もありまして、これだけぜいたくに、住宅2戸分を潰しています。裏も住宅2戸分を潰して、4戸潰しているのですけれども、それは事業が厳しくなるとすぐに住戸になってしまうのです。ゼロになるのです。ゼロ・百になってしまうので、今、まだこの状態で残っています。これを実現させて超高層のマンションだけれども、中間階にこれだけ豊かな共用空間があるというマンションが札幌にはないのです。

これから札幌にタワーが建ってくると思いますけれども、新しい時代のモデルになってほしいようなタワーとしてやっていきたいので、松田委員からご意見があったように、色、見え方も含めて、もうちょっと検討して進めていければと思います。よろしく願います。

○小澤部会長 ありがとうございます。

大変活発なやりとりがありまして、既に時間がもう5分ほど過ぎてしまいました。そろそろ閉じなければいけないのですが、委員の皆様から何かございましたらお願いいたします。

○渡部委員 最後に、色の件で私も一つ言いたいと思いました。

高層マンションで、ベランダの部分に豊平川という結構きつ目というか、はっきりした色を使っているのですが、景観70色の使い方の進め方としては、高層階に行くに従って低明度、低彩度の色にしましょう。空となじませましょうというのが基本になっているので、下のほうは開拓使とか濃い色を使っているのはいいのですが、上のほうに行くに従って、ブルー系の豊平川にしても薄目のグラデーションにしてもらえると、高さが強調されなくていいと思いました。

もう一点は、メディカルのところ、帯ということで、それぞれ4色を使っているのですが、2階のアクティブリンクからそれぞれのメディカルに行くつり下げ誘導サインでそれぞれの色を使うということが先ほどありました。メディカルで4色ということは、共同住宅もあるし、商業施設もあるということで、7色、8色、メディカルでベタのこの色が出てくるということは、商業施設もメディカルよりもっと目立たさなくてはいけないとなると、せっかくきれいなアクティブリンクの中でいろいろな色がちやごちや出てきてしまいます。また、総合案内板でも色がコントロールしにくくなってしまっているのではないかという気がするので、その辺のご配慮をいただくとありがたいと思いました。

○小澤部会長 ありがとうございます。

それでは、時間が過ぎておりますので、簡単にまとめをして閉じたいと思います。

最初に西山委員から発言ございましたけれども、まず、ネーミングの話です。今の活彩都市というのは正式な名前でないということですが、名前が決まりましたら、ロゴデザイン、それから、正面の芝生広場あたりのアピールの仕方もぜひご検討いただきたいという意見です。

それから、最も時間を割きましたけれども、アクティブリンクとその下の新設道路です。さまざまな道路規制等がございますし、松田委員からもご指摘がありましたけれども、道路ならではのさまざまな新しい試み、段差をなくす縁石の高さと、歩車分離を完全にするのではなく、シェアスペース的な考え方を入れることで、逆に高速通過交通のスピードが落ちたりというメリットを得ることができます。そういった知見もございますので、いろいろな話が出ましたが、そういった知見も合わせながら、大変な折衝だと思いますが、札幌市も含めて協議して、ここが人のためのスペースになるようにしていただきたいと思っております。

また、道路に関しましては、共用駐車場もございますけれども、搬入、搬出のほかに、患者さんの目線に沿ってどういう患者さんの動線になってくるか、そこで、なるべくバリアフリーになってほしいということがございましたし、その動線のところの緑化にもちよっと気を配っていただきたいという意見が出ておりました。

それから、アクティブリンクそのものなのですけれども、私からお願いしました温熱環境につきましては、さらにご検討していただいて、積雪寒冷地は非常に難しい条件であります。より皆さんが不快感なく使っていただけるものにしていただきたいということを考えております。

それから、岡本委員からさまざまな空中歩廊に注目して、建物と建物のつなぎの部分ですね。どうしても建物が併存している形になりますので、そこをつなぎ部分の検討、上下動線アップ・アンド・ダウンの問題もありますし、空中歩廊が意外と道路から目立つ、外から目立つというところもございますので、構造的な条件と色を大体決めたというお話でございましたけれども、できましたら、道路から入ってくるときに、景観の向上に資するような空中歩廊も皆様のご協力のもとでできる限りことをしていただけたらと思います。

図面ではなかなか出てこない天井の材料も大事になりますので、そういうところにも気を配っていただきたいと思っております。

それから、生態系のネットワークということでご提案いただいております。これも非常によい提案だという意見がございました。ただ高木と芝生だけではだめなので、低木、草花、ブッシュ等も含んで、先ほどの駐車場からの動線、患者さんの動線を考えてほしいということがありましたけれども、さまざまな樹木、草花を取り入れて、ぜひ豊かな、ここに提案いただいているような生態系が実現できるようにお願いしたいと思っておりますし、さらに実現した折には、かなり教育的な効果もありますので、市民、一般地域住民の学習という効果も兼ねて、サインもあわせて検討いただきたいと思っております。

それから、色等がございました。最後に渡部委員からもご意見が出ましたけれども、メディカル棟との調整プラス、商業施設としては、より目立っていきたいという気持ちは本来ございます。ですから、4種類の帯は、商業施設も含めて、街区全体で統一性を持てるようにぜひ頑張っていただきたいと思っております。

それから、先ほど最後に出ました高層棟の空中庭園の部分もぜひ死守していただけるよ

うに頑張っていたきたいのと、ファサード上、空間的にも検討の余地があるということでしたので、見る方が違和感を覚えないように、あそこに空中庭園があったらいいねと皆さんが思っただけのように、ぜひデザインをしていただきたいと思います。

ほかにも細かい点がいろいろ出ましたけれども、最終的にしっかり文書でまとめてお出しいたしますので、またそれをごらんになって、先の検討を進めていただきたいと思います。

それでは、進行が悪くて大変長くなってしまいましたけれども、ここで進行を事務局にお返ししたいと思います。

○事務局（地域計画課長） 委員の皆様、事業者の皆様、ありがとうございました。

今後の流れにつきましては、後日、事務局から事業者様に対し、改めてご連絡いたします。

以上をもちまして、議事事項1の審議を終了したいと思います。

ここで、少し休憩をとらせていただきますので、委員の皆様におかれましては、10時45分までにお席にお戻りくださいますようお願いいたします。

また、引き続き非公開により審議を行いますので、事業者、傍聴者、報道関係者の皆様につきましては、まことに申しわけありませんが、ご退席くださいますようお願いいたします。

本日は、どうもありがとうございました。

《議事事項2（非公開）》

3. 閉 会

○事務局（地域計画課長） 委員の皆様、事業者の皆様、ありがとうございました。

今後の流れにつきましては、後日、事務局から事業者様に対して改めてご連絡いたします。

それでは、本日の部会は以上で終了となります。

本日は、長時間にわたり、ありがとうございました。

4. 閉会後の追加意見

【議事事項1に関して】

- ・クリニック棟の建物の裏側にある厚別中央1条7丁目歩道線には、戸建住宅が多くあり、戸建ての玄関やリビングから西側にあるクリニックの裏側が見えることになる。建物の裏側はとかく、配管や排煙、エアコンコンプレッサーや、給油機などが多く配置されるが、住む人にとってストレスにならない配慮をお願いしたい。
- ・「自然が感じられる新さっぽろならではの「まち」をつくると」のコンセプトに関して、ホテル、駐車場、住宅などの建物には、縦に横に明度が強くさまざまな色が使われているが、さらに、メディカル4棟に配置されるカラフル縦ライン「彩帯」を使うことに、個人的に懸念している。例えば、色を使うとしたら、院名ロゴやマークなどに用いる、豊かな四季の原生林は人工的な「彩帯」でなく、壁面緑化を適用する、など、環境と景観に考慮したでメディカル棟が望ましいと思う。

以 上

令和元年度第2回景観アドバイザー部会

委員（6名出席）

岡本 浩一	北海学園大学工学部 教授
小澤 丈夫	北海道大学大学院工学研究院 教授
窪田 映子	株式会社KITABA 常務取締役
西山 徳明	北海道大学観光学高等研究センター 教授
松田 泰明	国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所 地域景観チーム 上席研究員
渡部 純子	公益社団法人日本サインデザイン協会 理事

（50音順、肩書き等は部会開催時点のもの）